

薬草園かわらばん

皆さんちょっと覗いてみませんか？
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2017年
12月27日
第30号



ニホンスイセン（ヒガンバナ科）

園内の自然保護区の小山に小さな群落が見られます。この地方でも越前海岸に野性化した大群落が有名ですよ！元はスペインのカナリー諸島の原産地からヨーロッパに入り、小アジア、中国を經由して日本に入ってきました。スイセンの亜種です。種子は出来ず、鱗茎の分球で増えます。鱗茎を水仙根（スイセンコン）といい、すり下ろして水腫などに塗るなど外用薬として使用されていましたが、接触性皮膚炎を起こすなどの副作用があり、現在では勧められません。また、全草にアルカロイドを含み、誤って飲食すると腹痛、下痢、吐き気などの中毒症状を起こすので注意が必要です（葉をニラと誤食した例もあります）。花はキレイなので、観察するだけにしましょう。

ビワ（バラ科）

園の管理棟の並びで、今の時期白い花を枝の先に付けているのが見られます。果実は翌年初夏に黄色く熟します。中国原産の常緑樹で、果樹として各地で栽培されています。大きく厚みがあり裏面に毛が密生している葉は、生薬名を枇杷葉（ビワヨウ）といい、昔から数種の生薬とブレンドして煎じ、暑気払いの飲み物（枇杷葉湯）として利用されてきました。また、あせもや湿疹には浴剤として用い、下痢、咳止めには煎じて服用します。ビワの葉は常緑ですが、薬用とするには9月頃採取すると良いとされています。

今、こんな草木が楽しめます 待ってまーす！！